



TITLE:

表紙・まえがき・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・まえがき・目次. 京都大学附置研究所・センターシンポジウム:
京都からの提言-21世紀の日本を考える (第7回) 「明るい未来像」
2013, 7

ISSUE DATE:

2013-02-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172946>

RIGHT:



新たな知の
地平を拓く

京都大学 附置研究所・センター
22 Research Institutes and Centers
Kyoto University



京都からの提言

京都大学附置研究所・センターシンポジウム

21世紀の日本を考える (第7回)

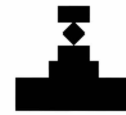
「明るい社会の未来像」

日時 2012年3月17日(土)
10:00～17:00

場所 神戸国際会議場メインホール

- 主催：京都大学附置研究所・センター
- 後援：読売新聞社、(公財)京都大学教育研究振興財団、神戸大学

報告書



新たな知の
地平を拓く

京都大学 附置研究所・センター
22 Research Institutes and Centers
Kyoto University

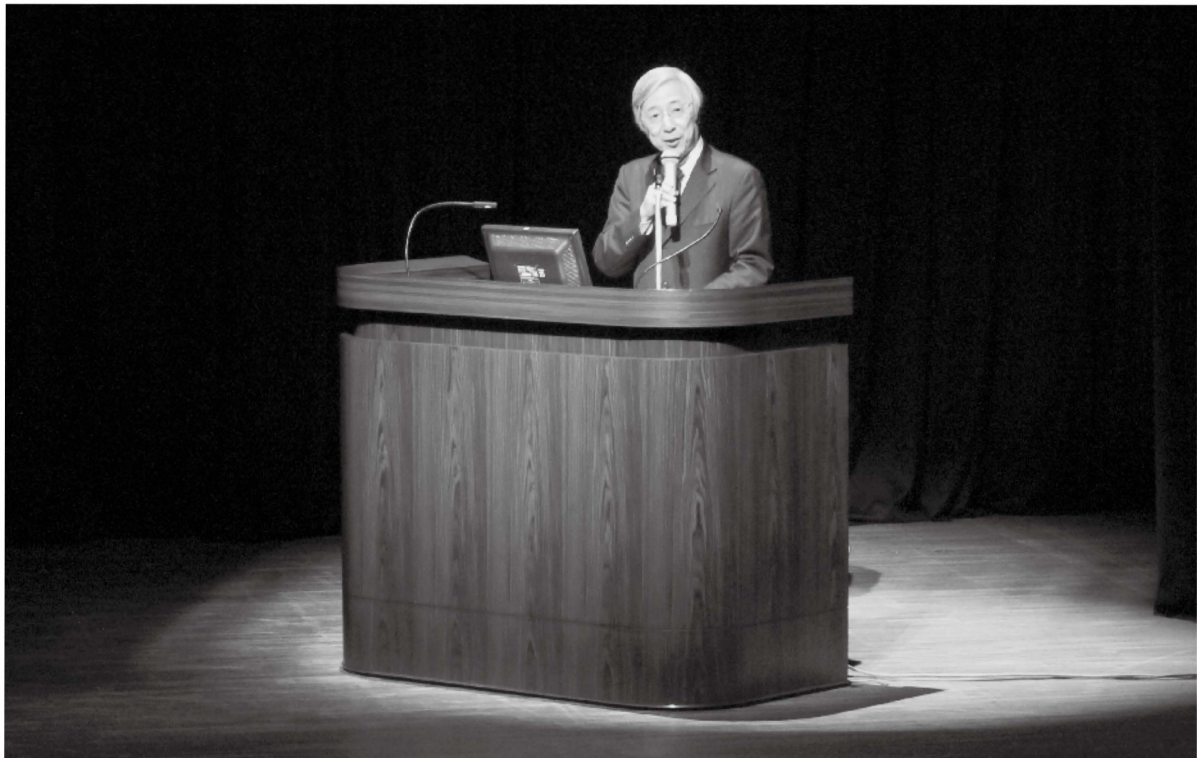


京都大学附置研究所・センターシンポジウム

京都からの提言 ― 21世紀の日本を考える (第7回)

報告書

明るい社会の未来像



まえがき

京都大学の22の附置研究所・センターは、第7回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの提言－21世紀の日本を考える」を平成24年3月17日に神戸市・神戸国際会議場メインホールにて開催しました。本報告書は、本シンポジウムの記録をまとめたものです。

今回は、「明るい社会の未来像」をサブテーマに取り上げました。平成23年3月11日の東日本大震災・津波、そして福島原発事故から1年を経て、また世界経済危機が沈静化せずなお不透明な状況が続くなかで、少しでも明るい未来社会を実感できるような基礎研究および先端的な研究成果を伝えたいという思いがこのテーマ設定に込められています。神戸大学福田秀樹学長は、千手観音微生物の開発によるバイオリファイナリー技術を紹介され、地球環境問題への貢献を提示されました。瀬原淳子教授（再生医科学研究所）は、細胞同士の相互作用から臓器再生を解明する試みを、ヘビ毒を材料にしてエネルギーに話されました。中島浩教授（学術情報メディアセンター）は、神戸ポートアイランドにあるスーパーコンピュータ「京」の性能と応用の意義を分かりやすく解説され、さらなる性能の引き上げへの挑戦を提起されました。北川進教授（物質－細胞統合システム拠点）は、「気体の錬金術師」を目指して取り組む金属と有機物の複合体「多孔性金属錯体」の開発を紹介し、社会貢献の意義を語られました。竹沢泰子教授（人文科学研究所）は、アメリカ日系人の強制収容の歴史を辿りながら、「記憶に事実を刻む」重要性を強調され、それはテロ後のアメリカ社会にも、そして震災後の日本社会にも「連帯」の形で生き続けると説かれています。いずれも、未来社会の持続性を視野に収めた先端的な研究と言えましょう。

パネル・ディスカッション「震災後の復興について」では、関西圏の3つの経済系研究所が協力して、震災復興の教訓について活発な討論が行われました。災害に弱い一極集中の分散化、競売による財源確保といった政策とともに、高度技術・不確実性に向き合うための法と経済学の素養の重要性が提言されました。

当日、雨天にもかかわらず、関西圏だけでなく全国各地から約370名が参加され、「最先端の研究内容が非常に分かりやすく説明され、大変勉強になった」、「多くの研究が社会へと還元されていることが分かり、東日本大震災の復興へとつながればと思いました」、「講演概要をまとめた資料を事前に配布してほしい」、「各地を巡るのも大事ですが、拠点である関西では毎年の開催を希望します」、「講演で使ったパワーポイント資料などをインターネット等で再確認できるようにしてほしい」などご意見が寄せられました。大学の研究が「閉じた社会」ではなく、人々の生活や社会に深くかかわっていることを知っていただく機会を提供できたと確信しております。

本シンポジウム開催にあたり、全学協力経費、京都大学教育研究振興財団、読売新聞大阪本社、ならびに各附置研究所・センターに財政面で多くのご支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。また、総長はじめ、講演者、パネリスト、コーディネーター、司会の皆様、神戸に

足をお運びいただきました参加者の皆様に感謝申し上げます。とりわけ、広報だけでなく、報告とパネル・ディスカッションにおいて多大なご協力をいただきました福田秀樹学長および神戸大学に感謝申し上げます。さらに、運営にあたり多大なご支援をいただきました読売新聞大阪本社の皆様、附置研究所・センター関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

本シンポジウム「京都からの提言」に今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都大学経済研究所長 溝端 佐登史

目 次

まえがき

開会挨拶 京都大学総長 松本 紘 1

歓迎挨拶・講演 1

バイオリファイナリーの展望 7

神戸大学学長 福田 秀樹

講演 2 生命誕生の設計図～再生の仕組みを解く鍵 15

再生医科学研究所教授 瀬原 淳子

講演 3 スーパーコンピュータが拓く未来 29

学術情報メディアセンター教授 中島 浩

講演 4 夢を現実にするナノ空間材料 47

物質－細胞統合システム拠点副拠点長／教授 北川 進

講演 5 日本人移民の歴史と多文化共生社会の明日 63

人文科学研究所教授 竹沢 泰子

パネル・ディスカッション

震災後の復興について 77

パネリスト：浜口 伸明（神戸大学経済経営研究所教授）

芹澤 成弘（大阪大学社会経済研究所教授）

矢野 誠（京都大学経済研究所教授）

コーディネーター：三野 和雄（京都大学経済研究所教授）

閉会挨拶 京都大学生存圏研究所 所長・教授 津田 敏隆 111

〔資料〕 案内チラシ

平成24年4月6日付け 読売新聞記事（大阪本社発行）

アンケート集計結果

京都大学 附置研究所・センターシンポジウム

京都からの提言

21世紀の日本を考える(第7回)

「明るい社会の未来像」

— 報告書 —

発行日 2013年2月26日発行

編集・発行 京都大学経済研究所総務掛
京都大学「京都からの提言」事務局

住所 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-7102

印刷所 (株)双林印刷社

京都大学 附置研究所・センターシンポジウム
「京都からの提言－21世紀の日本を考える」

- 第1回 平成18年3月16日(木) 10:00~17:30
東京・品川インターシティホール
サブテーマ:「危機をいかに乗り切るか? 東アジアといかに向き合うか?」
- 第2回 平成19年3月17日(土) 10:00~17:00
大阪・エルおおさか(大阪府立労働センター) エル・シアター
サブテーマ:「ノーベル物理学賞受賞者「湯川・朝永両博士が拓いた世界」
～湯川・朝永両博士 生誕百年に因んで～」
- 第3回 平成20年3月8日(土) 10:00~17:15
横浜・新都市ホール
サブテーマ:「人間と自然: 新たな脅威と命を守るしくみ」
- 第4回 平成21年3月14日(土) 10:00~17:25
名古屋・名鉄ホール
サブテーマ:「学問のつながりのユニークさ: それがつくる明るい未来」
- 第5回 平成22年3月13日(土) 10:00~17:15
福岡・アクロス福岡
サブテーマ:「グローバル社会に生きる 未来を見据える目」
- 第6回 平成23年7月3日(日) 10:00~18:00
京都・京都大学時計台百周年記念ホール
サブテーマ:「混沌の時代に光を探る」



新たな知の
地平を拓く

京都大学 附置研究所・センター
22 Research Institutes and Centers
Kyoto University



京都大学 附置研究所・センター

- 化学研究所
- 人文科学研究所
- 再生医科学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所
- 基礎物理学研究所
- ウイルス研究所
- 経済研究所
- 数理解析研究所
- 原子炉実験所
- 霊長類研究所
- 東南アジア研究所
- iPS細胞研究所
- 放射線生物研究センター
- 生態学研究センター
- 地域研究統合情報センター
- 学術情報メディアセンター
- フィールド科学教育研究センター
- こころの未来研究センター
- 野生動物研究センター
- 物質－細胞統合システム拠点